

肺がん診療など強化、AIも導入

外科専門医増、来月に新設

松波総合病院に 呼吸器センター



AIが病変の候補として指摘したX線画像。四角の部分候補として挙げている

松波総合病院(羽島郡笠松町)は4月、呼吸器センターを新設する。呼吸器内科、同外科、放射線治療科で構成し、肺がんをはじめとした呼吸器疾患の診療体制を強化する。(三輪真大)

人以上在籍する医療機関は県内では同病院を含め4病院しかないという。さらに常勤医として放射線治療の専門家を招き、強化する。新たに迎える呼吸器外科専門医は、岐阜市民病院の呼吸器外科部長を務めた医師。センター長には呼吸器内科部長の坂英雄医師を、副センター長には呼吸器外科部長の春日井敏夫医師をそれぞれ充てる。

センターの設立を念頭に2月には胸部X線画像の読み取りを支援する人工知能(AI)システムを導入。22年から手術支援ロボットの「ダヴィンチ」を肺がん手術にも適用しており、設備面も強化している。坂医師は「呼吸器疾患の診療の環境がここ数年で整った。症例を増やし、センターとして高みを目指したい」と話す。放射線治療の最新の装置も新たに導入する予定という。

AIシステムの活用でクリニックや診療所など周辺医療機関との連携を進め、ネットワーク化を進める。



X線画像の検査結果を受け再検査したCT画像。腫瘍が見つかったという(いずれも松波総合病院提供)